

こども病院前の巴川は早くも菜の花が満開。見事な黄色い帯が広がっています。

新聞にこんな話が載っていました。

中学校近くの1人暮らしのおばあさん、ご主人を亡くして寂しい日々。ある朝道路の掃除をしていると生徒がおはようと声をかけてくれた。それがきっかけで多くの生徒と友達になり孫ができたように楽しい日々を送れるようになった。心にたくさんの花が咲きました。小さな挨拶が人の心に花を咲かす。

季節の花があちらこちらで咲くように人の心にも花が咲いてほしい。

そして、自分も誰かの心に花を咲かせてあげられたらいいな。・・・季節は春です。

<第93回 ほほえみの会>

最近入院された方3人と堀越先生、奈良先生含め11人が参加しました。

▽ 1歳7ヶ月女の子、神経芽腫。マスキングでわかり1年通院したが結局入院治療に。薬を飲ませるのに大変。

外来の時は同じ病気のお母さんがいることも知らず孤独だったが、病棟に入り母親同士でいろいろ話ができるようになった。ほほえみの会でいろんな人の話を聞いたのも良かった。

こども病院に来て人間としての視野が広がった。

神経芽腫は1歳未満では自然に消える可能性もあり、様子を見ている人もいる。そのためマスキング検査の是非も問われているが検査で見つかり治るケースもあるのですぐには変わらないだろう。

医師から治療をしようか親に判断を求められたがどうしていいかわからない。先生に任せるしかないが親も勉強する。

わからない事を何回も先生に聞く。分かったつもりになって聞いていても家に帰って祖父母に話そうとすると分かっていないことに気づく。

医師も説明しながらも理解していないだろうなと思うこともある。遠慮しないで何回でも聞いてもらってかまわないとのこと。

病院の医師は聞くと煩がられるというイメージがあったがこども病院の先生、看護婦さんは親切に答えてくれる。理解できる言葉で不安感を取り除いてくれるのでありがたい。

▽ 5ヶ月男の子、神経芽腫。お風呂で体を洗っていてお腹にピンポン玉位の腫れがあるのに気づき病院へ。転移がないことが分かりこれから治療に入る。

▽ 2歳4ヶ月男の子、骨髄異形成症候群。これから治療にはいるが自宅が下田で清水の親戚から病院に通う。父親と4歳の姉が週1で下田から通う。

兄弟の面接についても話題になりました。

兄弟の面接は非常に大切。顔を見ると元気になった。また治療の過程を見せて髪が抜けたりしていく様子を見せることも大事。

かつて兄弟の面会ができないなら入院しないと言ったケースもあった。アメリカでは許されているという報告もあるので今後の検討事項。病棟に兄弟が入るときのチェック体制をいかにしてとるかが課題。親の面会時、病棟に兄弟の面倒を見てくれる保育士かボランティアの人がいてくれるといい。お願いできないだろうか。

▽ 建設中のこども病院北館が完成し会の参加者で見学をしました。

思った以上に新病棟は広く明るくきれいでした。3月15日に病棟の引っ越しをするそうです。B1は5階で見晴らしも良く屋上には広場も作られていました。

次回は 4月13日(日)11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス

klikeda@mx1.s-cnet.ne.jp

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/hohoemi/>